



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：P5+1 との協議（イスタンブル専門家会合、7月3日）（7月4日付現地報道ほか）

1. イランの4日付メディアによる報道

- (1) 3日、イスタンブルにおいて、イランとP5+1（国連安保理常任理事国＋独国）との専門家会合が非公式で開催された。イラン側からは、外務省、原子力庁および国家安全保障最高評議会（SNSC）の専門家による代表団が出席した。
- (2) アシュトン EU 外交安保政策上級代表の Maja Kocijancic 報道官は、「我々は、イランが明確な信頼醸成ステップに関する合意に至るために取り組み、国際社会の懸念に対処するために、外交を通じて仕事を行う意思があるか決めることを期待する」と述べた。
- (3) 同会合後、EU は「P5+1 とイランの双方は、自らの提案の詳細を提起し、専門家が幾つかの技術的問題を検討した。同会合は1日で終了し、深夜1時に終了した」との声明を発出した。
- (4) サーレヒー外相は、4日の閣議ぶら下がりにおいて、「これまでの所、同会合に関する報告には接していない」と述べた。

2. アシュトン EU 外交安保政策上級代表報道官発出の声明（4日）

- (1) モスクワでの合意に従い、3日、イスタンブルにおいて技術的議論が行われた。核問題専門家のシュテファン・クレメントがアシュトン代表の代理として議論をリードし、P5+1の専門家とイランが参加した。
- (2) P5+1は、バグダードで提示したP5+1の提案のさらなる詳細を提供し、イランは、イラン側提案の詳細を共有した。専門家たちは、多くの技術的論点について立場を模索した。会合は終日続き、午前1時に終了した。
- (3) アシュトン代表がモスクワでサイド・ジャリーリー-SNSC書記が会った際に合意された通り、イスタンブルでの技術的会合を受けて、欧州対外活動庁（EEAS）のヘルガ・シュミット事務次長とアリー・バーゲリー-SNSC次長との会合が行われる。

3. リャブコフ露外務次官の発言（4日付露インテルファクス通信）

- (1) ロシア政府は、3日にイスタンブルで行われた国際的仲裁者であるP5+1とイランとの専門家会合の結果に満足しているが、（問題の）決定的な突破口はもたらされなかったことを指摘している。
- (2) インテルファクス通信に対しリャブコフ外務次官は「全体として我々は結果に満足し

ているが、急激な進歩や突破口、また決定的な進歩の達成については、自分はまだ述べることはできない。追加的な努力をする必要がある」と述べた。また「これは直接的な意味での交渉ではなく、モスクワやその前にバグダードで行われたものの繰り返しではない。技術的な専門家間の会合は、以前行われた（交渉）ラウンドの過程で（交渉）当事者が交換した立場の詳細を明確にするために必要であった」と述べた。

- (3) さらに同次官は、「（交渉）当事者は、依然として現在およびさらに長期的な問題の解決モデルの模索状態にある。これは全てイランにおけるウランの 20%濃縮に関連するものである。イラン側が P5+1 に対して提示しているウラン濃縮に関するイランの権利の承認を含む一連の問題が存在する」「非常に複雑で矛盾した経緯がある際に、立場を近づけることが非常に難しいことは分かるが、我々はあきらめないし、イスタンブルでの専門家のコンタクトが失敗に終わったとは考えていない。むしろ反対に、一定の進歩について述べるだけの根拠がある」と強調した。